

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	共同通信社	カザフスタン北部や東部で大量の鶏などが死んだ鳥インフルエンザのウイルスは、毒性の強いH5N1型と判明したと発表した。これまでのところ人への感染は確認されていない。
											トリインフルエンザ	共同通信社	中国チベット自治区ラサ周辺にある飼育場でこのほど、多数の家禽(かきん)類が鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染して死んだ。
2005/09/15	58028	東レ株式会社	植込み型医薬品注入器 滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル その他の外科・整形外科用手術材料(涙液・涙道シリコンチューブ) 滅菌済み体内植込みチューブ及びカテーテル 合成樹脂製人工血管	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	①~④⑥⑦ ブラジル、 ⑤⑧⑨中国	有効成分	無し	無し	無し			
2005/09/20	58029	株式会社ウベ循環研	ヘパリン使用体内植込み用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Mem Inst Oswaldo Cruz 100: 117-122, 2005	ブラジル南東における種々の動物でのHEVの血清学的な証拠。
											HEV	Journal of Clinical Microbiology 43: 3042-3048, 2005	韓国における新規のヒトHEV分離株の識別とHEVの血清陽性率の測定について。
											ウイルス感染	Intervirology 48: 216-222, 2005	血液透析患者でのSENウイルス(SENV)の高罹患率について。
											ウイルス感染	CDC/MMWR 54: 269-272, 2005	2005年1月26日、ミズーリ州で4例のPseudomonas fluorescens血流患者がCDCに報告された。全患者は、留置した中心静脈カテーテルによる血液凝固を防ぐため、ヘパリン/生理食塩水のフラッシュを受けていた。フラッシュ液は、IV Flush社製造、Pinnacle Medical Supply社(Rowleet, Texas)販売の充填済みシリンジであった。培養検査の結果、カテーテルを通した血液やIV Flush社製の未開封のヘパリン/食塩水シリンジにおいて、P.fluorescensの増殖を認めた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/09/22	58030	タカラバイオ株式会社	その他の血液浄化装置	羊抗体	ジツジ血液	ノルウェー	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Tohoku J. Exp. Med 206:173-179, 2005	E型肝炎ウイルス(HEV)は多くの発展途上国における急性肝炎の主要原因の1つであるが、最近の集中検査により、工業先進国の非輸入症例が明かになった。症例は急性肝炎の25歳の日本女性。その発症数年後にHEVに対する血清抗体の試験が可能となり、凍結保存しておいた血清を調べた結果、急性E型肝炎と診断され、急性突発性肝炎の診断にはHEV感染を考慮する必要性が示唆された。
2005/09/22	58031	タカラバイオ株式会社	その他の血液浄化装置	マウス抗体	マウス脾臓由来のハイブリドーマの細胞培養液	米国	有効成分	有り	無し	無し	ハンタウイルス	Journal of Clinical Microbiology 43: 2756-2763, 2005	中央ヨーロッパのスロバキアにおいて捕獲した野生のセズジネズミから、ハンタウイルスの一種であるDobravaウイルス(DOBV)が分離され、当該ウイルスが中央ヨーロッパにおける腎症候性出血熱(HFRS)の主要原因ウイルスであることが示唆された。
2005/09/22	58032	タカラバイオ株式会社	その他の血液浄化装置	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分	無し	無し	無し			
2005/09/27	58033		ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用体外式模型人工肺	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	米国	添加物	有り	無し	無し	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 29(15)	新たな集団において確認された変異型クロイツフェルト・ヤコブ病のリスクが増加について。
											HEV	ウイルス 54: 243-248, 2004	日本におけるE型肝炎(HEV)について述べており、HEVの集団発生3例が報告されている。それぞれの原因は野生イノシシの生の肝臓、野生シカの刺身、イノシシのバーベキューであった。野生イノシシおよび野生シカのHEV抗体、HEV RNA陽性率について報告されている。イノシシ、シカ、ヒトという異種間HEV感染が起こった可能性を示唆する系統樹解析結果が示され、飼育ブタはほぼ100%HEVに感染している。ブタからヒトへの感染について論じられ、またイノシシ、シカ、ブタ以外の動物のHVE感染についても述べられている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											結核	CDC/MMWR 53: 605-608, 2005	2002～2004年において、ニューヨーク市でのウシ結核が原因のヒト結核について。
											コロナウイルス感染	Nature Letters 436:112-117, 2005	ACE阻害剤が、マウスでSARSウイルスの重要なレセプターであり、SARSウイルスに感染したマウスに注射したところ同ウイルスが阻止され、またマウスの急性肺炎障害から保護した。予備的ではあるが、ACE阻害剤がSARS感染者および急性肺障害患者の治療に有用である可能性が示唆されている。
											ブタ連鎖球菌	WHO HP http://www.who.int/media_centre/news/news/_20050816.html	2005年6月下旬から8月3日までに、中国四川省中心にブタ連鎖球菌による急性かつ重篤例の流行が報告された。215例中39人死亡。患者の職業は、農業従事者や肉食であり、病豚の屠殺や生肉の販売に携わっていた。 当局は、ここまでの調査結果に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠が全くないが、近年に比べ特に今回が非常に大きく、また非常に多くの死亡例が出たのか確認するためにさらなる調査が必要であると述べている。
											ウエストナイルウイルス	AABB Weekly Report 20 May 2005	2005年5月11日のCNN Reportによると、このワクチンはAcambisが開発し、安全性試験が現在も実施中で最低3年は販売する見込みがない。この西ナイルウイルスワクチンは承認されている黄熱ワクチンから遺伝子組み換えワクチンとして開発され、予備試験の結果より、NIAID(National Institute of Allergy and Infectious Diseases)は開発初段階であるが、このハイブリットワクチンの安全性は特筆すべきであろうと指摘したことなどについて記載。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	WHO HP <a href="http://www.who.int/bulletin/volumes/83/5/infocus0505/en/index.html">http://www.who.int/bulletin/volumes/83/5/infocus0505/en/index.html</a>	専門家達は高病原性トリインフルエンザH5N1の広範囲発生は世界中で数百万の人々を死亡させることを警告している。H5N1はすでに2つの特徴(ヒトに感染する、重度の疾病の原因となる能力)を示している事、インフルエンザ流行準備計画を構築もしくは更新するよう強く要請していること、カナダ、日本、英国、米国などは既にプロトタイプH5N1インフルエンザワクチンの開発のためにワクチン製造会社との話し合いが行われていることなどが記載されている。
											ウイルス感染	CDC/MMWR 54: 537-539, 2005	マサチューセッツ州及びロードアイランド州における臓器移植レシエントのリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)について。
											ウイルス感染	Health Canada June 5 2005 <a href="http://www.phacspc.gc.ca/media/nr-rp/2005/2005_21_e.html">http://www.phacspc.gc.ca/media/nr-rp/2005/2005_21_e.html</a>	PHACの科学者がヒト以外の霊長類において効果を示したエボラおよびマールブルグウイルスに対するワクチンを開発したこれらのワクチンがサルにおいて効果的であると示唆されたことにより、ヒトでの使用に対する実証的な可能性の見込みの指標になったことなどの報告。
											狂犬病	ペットポータル <a href="http://www.petportal.jp/mt/archives/000167.html">http://www.petportal.jp/mt/archives/000167.html</a>	米国でドナーが狂犬病に感染していることを知らずに、臓器提供された4名が全員死亡するという事故が生じたこと、CDCが発表した。
											ウイルス感染	Weekly Epidemiological record 18: 157-164, 2005	インドネシア、アチェ州における津波後の流行しやすい疾病状況のサーベイランスおよび対応。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/09/27	58034	エドワーズライフサイエンス株式会社	ヘパリン使用静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用サーモダイリユーション用カテーテル ヘパリン使用バルーン付ベアリング向け循環器用カテーテル ヘパリン使用静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用体外式ペースメーカー用心臓電極 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用人工心肺用回路 ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	ブタ連鎖球菌	WHO/CSR 3 August 2005 <a href="http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx.html">http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx.html</a>	2005年8月3日、中国保健省はブタ連鎖球菌( <i>Streptococcus suis</i> )のアウトブレイクに関連した感染症例206例を報告。これらのヒト症例中38例が死亡し、中国の報告によると18例が重篤である。
2005/09/30	58035	アリージャンス株式会社	滅菌済み体内留排液用チューブ及びカテーテル	ヘパリン(ナトリウム塩)	ブタ小腸粘膜	米国・カナダ	有効成分	有り	無し	無し	トリインフルエンザ	OIE Disease Information 21 (18): (27 May 2005)	インドネシアでの高病原性鳥インフルエンザH5N1型について追加報告。Banten州Tangerang地区で、検体採取法により、3つの調査が実施され、検体187件が採取された。これらの調査にて鳥インフルエンザの臨床的徴候を示したブタはいなかった。
											口蹄疫	OIE Disease Information 29 (18): (22 July 2005)	中国における口蹄疫感染群の概要。甘肅省(Gansu)のPingliang市、青海省(Qinghai)のHuangnan地区にて、それぞれ1箇所の発症報告。口蹄疫ウイルス血清型アジア1。感染由来については調査中。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	WHO HP http://www.who.int/media_centre/news/news/_20050816.html	2005年6月下旬から8月3日までに、中国四川省中心にブタ連鎖球菌による急性かつ重篤例の流行が報告された。215例中39人死亡。患者の職業は、農業従事者や肉食であり、病豚の屠殺や生肉の販売に携わっていた。 当局は、ここまでの調査結果に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠が全くないが、近年に比べ特に今回が非常に大きく、また非常に多くの死亡例が出たのか確認するためにさらなる調査が必要であると述べている。
2005/10/12	58036	日本メドトロニック株式会社	生体人工心臓弁	生体人工心臓弁	ブタ大動脈弁および大動脈基部	米国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Medical Practice 22: 860-862, 2005	日本におけるE型肝炎についての解説。E型肝炎は人獣共通感染症で、ブタレバー、イノシシバーベキューの食事で死亡を含む患者の発生があった。
											ブタ連鎖球菌	WHO/CSR 3 August 2005 http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx.html	2005年8月3日、中国保健省はブタ連鎖球菌( <i>Streptococcus suis</i> )のアウトブレイクに関連した感染症例206例を報告。これらのヒト症例中38例が死亡し、中国の報告によると18例が重篤である。
											トリインフルエンザ	小児 46: 475-480, 2005	鳥インフルエンザとヒトとの関わりを概観した。東南アジアでの流行について解説。
											トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 10: 2156-2160, 2004	1989年、米国のブタ集団に新規H3N2交雑ウイルスが出現した。我々は、2003年に米国から地理的に離れた2箇所の飼育場で起こったウイルスのシチメンチョウへの種間伝播についての報告。
											トリインフルエンザ	International Journal of Medical Science 2: 87-90, 2005	1918-1919年でのインフルエンザ汎流行におけるトリとの関連性について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/12	58037	日本メドトロニック株式会社	人工心肺用血液回路 その他のチューブ及び カテーテルの周辺関連 器具(ディスポーザ ブルカニューレ) 人工心肺装置の付属 品(貯血槽) 人工心肺用ポンプ 人工心肺装置の付属 品(流量測定用コネク ター) 模型人工肺 滅菌済み開心術用 チューブ及びカテーテ ル 人工心肺装置の付属 品(心内血貯血槽)	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Medical Practice 22: 860-862, 2005	日本におけるE型肝炎についての解説。E型肝炎は人獣共通感染で、ブタレバー、イノシシ肉のバーベキューの食事で死亡を含む患者の発生があった。
											ブタ連鎖球菌	WHO/CSR 3 August 2005 <a href="http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx..html">http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx..html</a>	2005年8月3日、中国保健省はブタ連鎖球菌( <i>Streptococcus suis</i> )のアウトブレイクに関連した感染症例206例を報告。これらのヒト症例中38例が死亡し、中国の報告によると18例が重篤である。
											トリインフルエンザ	小児 46: 475-480, 2005	鳥インフルエンザとヒトとの関わりを概観した、東南アジアでの流行について解説。
											トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 10: 2156-2160, 2004	1989年、米国のブタ集団に新規H3N2交雑ウイルスが出現した。我々は、2003年に米国から地理的に離れた2箇所の飼育場で起こったウイルスのシチメンチョウへの種間伝播についての報告。
											トリインフルエンザ	International Journal of Medical Science 2: 87-90, 2005	1918-1919年でのインフルエンザ汎流行におけるトリとの関連性について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/12	58038	テルモ株式会社	滅菌済み心臓用チューブ及びカテーテル 模型人工肺 人工心臓装置の付属品(心内血吸引貯血槽) 人工心臓装置の付属品(静脈貯血槽) 人工心臓装置の付属品(人工心臓用貯血槽) 人工心臓装置の付属品(人工心臓用気泡除去器) 人工心臓装置の付属品(血液ろ過器) その他の人工肺(ディスプレイシステム) 人工心臓用血液回路 人工心臓用ポンプ 滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル 人工心臓装置の付属品	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Journal of General Virology 84: 2351-2357, 2005	2001～2002年に、北海道で発散的に発生した急性ないし劇症E型肝炎の感染症10例のうち、9例において調理された豚レバーを食べた履歴があった。そこで北海道の食肉売り場にて販売されている生の豚レバーについてPCRにてE型肝炎ウイルス(HEV)の存在を調べたところ、363例中7例(1.9%)にウイルスRNAが検出された。この検出されたウイルスのあるものは、感染患者から分離されたウイルスの塩基配列との相当性が認められた。これらの結果から不十分な豚レバーの調理が、HEVのヒトの伝播をもたらす可能性が示唆された。
2005/10/17	58039	ポストン・サイエントフィックジャパン株式会社	心臓ペースメーカーの付属品(体外式ペースメーカー電極)	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	アメリカ合衆国/カナダ	有効成分	有り	無し	無し	ブタ連鎖球菌	IDSC HP WHO 2005/8/16(原文)	2005年6月下旬から8月3日までに、中国四川省中心にブタ連鎖球菌による急性かつ重篤例の流行が報告された。215例中39人死亡。患者の職業は、農業従事者や肉食であり、病豚の屠殺や生肉の販売に携わっていた。当局は、ここまでの調査結果に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠が全いが、近年に比べて今回が非常に大きく、また非常に多くの死亡例が出たのか確認するためにさらなる調査が必要であると述べている。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/26	58040	エドワーズライフサイエンス株式会社	ブタ心臓弁 人工血管付ブタ心臓弁 植込み型補助人工心臓	-	ブタ心臓弁	米国	有効成分	有り	無し	無し	ブタ連鎖球菌	WHO/WPRO 16 August 2005	2005年6月下旬から8月3日までに、中国四川省中心にブタ連鎖球菌による急性かつ重篤例の流行が報告された。215例中39人死亡。患者の職業は、農業従事者や肉食であり、病豚の屠殺や生肉の販売に携わっていた。 当局は、ここまでの調査結果に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠が全くないが、近年に比べ特に今回が非常に大きく、また非常に多くの死亡例が出たのか確認するためにさらなる調査が必要であると述べている。
2005/10/26	58041	エドワーズライフサイエンス株式会社	ウシ心のう膜	ウシ心のう膜	ウシ心のう膜	米国	有効成分	有り	無し	無し	BSE	OIE Disease Information 26 (18): (1 July 2005)	当該ウシは歩行困難であったためBSE検査対象と判断された。2004年11月に米国農務省が最初の迅速検査を行ったところ、決定的でないことから、これに続いてIHC検査を実施した。この結果は陰性であったため、当該ウシは陰性であると結論。監査組織の指摘により、ICH検査で陰性であったものの、ウエスタンブロット法による追加試験が要請された。その結果、1つのサンプルから陽性が確認され、このサンプルはイギリスのウェイブリッジ研究所へ送られ、ウエスタンブロット法およびICH検査が実施され、いずれも陽性であることが確認された。
											ウイルス感染	OIE Disease Information 26 (18): (1 July 2005)	2005年4月より、米国中西部(アリゾナ州およびコロラド州、モンタナ州、ニューメキシコ州、ユタ州、ワイオミング州)において、ウマおよびウシにおける水胞性口炎が発生した。米国農務省の植物保険検査局により、節足動物の管理、感染した家畜施設の隔離、感染の調査が実施されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/26	58042	日本シャーウッド株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用チューブ ウロキナーゼ使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ウロキナーゼ	ヒト尿	中華人民共和国	添加物	有り	無し	無し	ブタ連鎖球菌	Science 309: 1308-1309, 2005	過去2年間に中国の四川省中部で38人の死者と600頭を超える豚の死亡をもたらした原因は新規のより強い病原型のStreptococcus suis菌であるかもしれないよ国際的な専門家は危惧している。しかし、ヒトでは通常、散発的に認められるのも稀で、致死性になるともめつたにない疾病である。どのようにして致死性になるのか、さらに再発生することがあるのか困惑している。ヒトおよび動物の検体に関する検査では血清型2のStreptococcus suisの存在が確認され、インフルエンザやニパウイルスを含む他の最近やウイルス性病原体は否定された。同省はヒト-ヒト伝播を示すエビデンスについては確認していない。
2005/11/10	58043	株式会社メディコスヒラタ	旧:滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル、新:ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロチューブセット 旧:滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル、新:ヘパリン使用医薬品投与血管造影用カテーテル 旧:その他のチューブ及びカテーテルの周辺関連機器(カテーテル挿入セット)、新:ヘパリン使用カテーテルイントロチューブ 旧:滅菌済み血管処置用チューブ及びカテーテル、新:ヘパリン使用心臓・中心循環系カテーテルガイドワイヤ ヘパリン使	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	ブタ連鎖球菌	WHO/WPRO 16 August 2005	2005年6月下旬から8月3日までに、中国四川省中心にブタ連鎖球菌による急性かつ重篤例の流行が報告された。215例中39人死亡。患者の職業は、農業従事者や肉食であり、病豚の屠殺や生肉の販売に携わっていた。 当局は、ここまでの調査結果に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠が全くないが、近年に比べ特に今回が非常に大きく、また非常に多くの死亡例が出たのか確認するためにさらの調査が必要であると述べている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	CDC/MMWR 54: 269-272, 2005	2005年1月26日、ミズーリ州で4例の Pseudomonas fluorescens 血流患者がCDCに報告された。全患者は、留置した中心静脈カテーテルによる血液凝固を防ぐため、ヘパリン/生理食塩水のフラッシュを受けていた。フラッシュ液は、IV Flush社製造、Pinnacle Medical Supply社 (Rowleet, Texas)販売の充填済みシリンジであった。培養検査の結果、カテーテルを通した血液やIV Flush社製の未開封のヘパリン/食塩水シリンジにおいて、P.fluorescensの増殖を認めた。
2005/11/28	58044	アボット・ジャパン株式会社	ヘパリンしよう中心静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用酸素飽和度モニタ付サーモダイリューション用カテーテル ヘパリンしよう酸素飽和度モニタ付サーモダイリューション用カテーテル	ヘパリンナトリウム	豚の腸粘膜	アメリカ、カナダ	有効成分	有り	無し	無し	寄生虫感染	養豚の友 436: 67-69, 2005	顎口虫に関する報告。顎口虫の第一中間宿主はケンミジンコ、第二中間宿主は甲殻類、淡水魚類、両生類、ほ乳類など多様である。イノシシの感染例では顎口虫成虫が胃粘膜深層まで穴を開けて寄生していた。現在、日本のブタからの報告はないが、イノシシでは普通にみられることから、有機農法による放牧豚で本中が認められる可能性がある。日本のブタの寄生虫としては存在が不明なため、予防・治療の対象にならない。
											HEV	ウイルス 54: 243-248, 2004	日本におけるE型肝炎(HEV)について述べており、HEVの集団発生3例が報告されている。それぞれ原因は野生イノシシの生の肝臓、野生シカのササミ、イノシシのバーベキューであった。野生イノシシおよび野生シカのHEV抗体、HEV RNA陽性率について報告されている。イノシシ、シカ、ヒトという異種間HEV感染が起こった可能性を示唆する系統樹解析結果が示され、飼育ブタはほぼ100%HEVに感染している。ブタからヒトへの感染について論じられ、またイノシシ、シカ、ブタ以外の動物のHVE感染についても述べられている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											寄生虫感染	Trends in Parasitology 21: 160-161, 2005	トバランチジウム症に関する報告。B. coliは最長の原生動物で、ヒトに感染する唯一の絨毛虫である。この感染の存在は、北はスウェーデン、フィンランド、北部ロシアから報告されており、高い感染率は亜熱帯及び熱帯地域より報告されている。B. coliの存在は中央・南アメリカ(ブラジルやベネズエラ)、フィリピン、パプアニューギアにおいても知られている。また宗教的にブタと接触がない地域でも、周辺に生息する野生のイノシシと間接接触及び偶発的なB. coliの摂取があれば起こり得るという調査の結果を示したことから、そのような地域では感染に注意が必要であると述べている。
											レトロウイルス	Transplantation a proceedings 37: 493-495, 2005	ブタ内在性レトロウイルス(PERV)感染に関する報告。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050728-0060 27 July 2005	ブタの最近であるブタ連鎖球菌 Streptococcus suis による患者117名中、死亡患者が24名に増加した。ヒトへの感染伝播は稀であるが、四川省の事例での死亡率の高さは警戒を要する。
											ブタ連鎖球菌	WHO/CSR 3 August 2005 <a href="http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx.html">http://www.who.int/don/2005_08_03/en/indwx.html</a>	2005年8月3日、中国保健省はブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)のアウトブレイクに関連した感染症例206例を報告。これらのヒト症例中38例が死亡し、中国の報告によると18例が重篤である。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050804-0020 03 Aug 2005	現在(2005年8月2日)、四川省南部のブタ由来感染症流行によると死亡患者は、1名増え37名になった。中国衛生部の最新報告によると、今までにStreptococcus suis type2 の患者が報告された。このうち159名が確認され46名が疑いで、18名が退院し、29名が重症である。すべての患者は発病したブタ、あついは死亡したブタとの接触歴があるとの報告。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050805-0060 04 Aug 2005	中国四川省でのブタ由来疾患で通常より高い死亡率の原因は、短い潜伏期と多臓器不全であると医学専門家が述べた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050809-0010 08 Aug 2005	2005年8月6日、中国四川省で、新たなブタ連鎖球菌感染患者2名と、死亡患者1名が報告された。患者数の累計は214名に、死亡数は39名に増加した。
											ブタ連鎖球菌	WHO HP <a href="http://www.who.int/media_centre/news/news/_20050816.html">http://www.who.int/media_centre/news/news/_20050816.html</a>	2005年6月下旬から8月3日までに、中国四川省中心にブタ連鎖球菌による急性かつ重篤例の流行が報告された。215例中39人死亡。患者の職業は、農業従事者や肉食であり、病豚の屠殺や生肉の販売に携わっていた。当局は、ここまでの調査結果に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠が全くないが、近年に比べ特に今回が非常に大きく、また非常に多くの死亡例が出たのか確認するためにさらなる調査が必要であると述べている。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050819-0030 18 Aug 2005	1998年夏季に、江蘇省で住民に致死性のブタ連鎖球菌事例が発生し、14名が死亡したうえ、ブタ8万頭が死亡した。原因菌は、最近の四川省における流行と同じStreptococcus suis type2と確認され、疫学的関連もし戦勝で確認されたものと同様であるとの報告。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050818-0040 17 Aug 2005	香港の食肉関係者が2005年6月に中国での今回初めて報告された以降では、香港で4例目の、年初からは9例目の連鎖球菌に罹患した。保健局は、今回香港の患者は、最近本土を旅行していなかったが、指に受傷していたと発表し、市中に対してブタや生の豚肉を取り扱う際には手袋を着用するよう呼びかけている。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050820-0030 18 Aug 2005	ブタ連鎖球菌は中国のみの発生ではない。1998年に中国の江蘇省でトキシックショック様、あるいは髄膜炎症状を呈した25名のStreptococcus suis type2の感染患者が報告された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050823-0060 22 Aug 2005	中国政府は、2005年8月22日、中国南部で4名がブタの感染症に感染し、うち1名が死亡したと発表した。現時点での感染経路は不明である。
											ブタ連鎖球菌	ProMED 20050826-0020 23 Aug 2005	香港外への旅行歴もなかった62歳女性がブタ連鎖球菌に感染し、香港での累計の患者数は11名となった。この患者11名中以前に発生した9名から分離した菌株の遺伝子解析の結果、以前発生した患者が散発例で、患者間には関連がないことを示唆したとの指摘した。
											ブタ連鎖球菌	IDSC HP <a href="http://www.idsc.nih.gov/iasr/rapid/pr3070.html">http://www.idsc.nih.gov/iasr/rapid/pr3070.html</a>	ブタ連鎖球菌であるStreptococcus suisのヒト感染例について、日本における5例の臨床像の特徴などについて。